



須田っ子

第12号

学校教育目標「進んで心や体をすこやかにする子」 SA・SU・CA・DA

欠席ゼロで2学期スタート

校長

始業式で一番うれしかったことは、子供たちが全員登校してきたことです。夏休み最大のめあては、「自分の命を失わないこと、人の命を奪わないこと、そして、大げがをしない、させない」という話を1学期の終業式でしましたが、子供たち全員がめあてを達成できました。子供たちの努力はもちろん、ご家庭で子供たちの健康管理をしっかりとしていただいたり、地域の皆様から見守っていただいたりしたお陰であると思います。ありがとうございました。

始業式では、「自由研究の成果が大発見になるかも」、「新型コロナウイルス感染予防対策」「考え、実行することでよりよい生活になる」の3つについて話をしました。

最初の話は、セミは短命なのかを調べた高校生とカブトムシは夜行性なのかを調べた小学生の話をしました。子供たちにセミはどのくらい生きるのかと聞いたところ、1週間と返ってきました。わたしもそのくらいだろうと思っていました。しかし、この高校生は、セミを捕まえて羽に油性ペンで番号を振り、再捕獲することで生存期間を明らかにしようとしたところ、アブラゼミは32日など、思っているよりも長生きであることを明らかにしたというものです。須田小の子供たちがしてきた自由研究の中にもこのように常識をくつがえすものがあるかもしれません。

二つ目は、「令和2年8月22日 139人」「令和3年8月22日 5937人」という数字を提示して、新型コロナウイルス感染予防で気を付けることを話しました。子供たちには以下の注意することを提示しましたので、ご家庭でもご指導お願いします。

- ①体温を登校前に測り、学校に登校していいか確認する。
- ②基本はマスクを着用する。(特に、人混みの中では)
- ③うがい手洗いを徹底する。
- ④共用を避ける。(ハンカチの貸し借りなど)
- ⑤免疫力を高める。(睡眠、運動、栄養)
- ⑥偏見をもたない、差別をしない。
- ⑦不安な気持ちを伝える。(親、先生、友達)
- ⑧3密(密集、密接、密閉)を避ける。



2学期はマラソン大会など、いろいろな行事が予定されています。感染予防対策を立てて実施していきたいと思います。しかし、感染状況によっては、無観客や中止などの措置を行う場合もありますので、ご了承ください。また、オンライン配信なども考えています。詳しいことについては、その都度お知らせします。

三つ目は、「考え、実行する」ことの大切さの話です。

1学期終業式では、「オリンピック開催に賛成65人、反対13人」でした。オリンピックが終了し、現在パラリンピックが開催されていますが、「オリンピックを開催してよかった71人、開催しない方がよかった7人」という結果でした。どちらの考えでもよいのですが、しっかりと表現できてすばらしいと思いました。また、1学期には、「修学旅行は方面を変えても6月中に行うか、2学期に福島県での修学旅行にするか」を6年生に考えてもらいました。わたしは、秋には新型コロナウイルス感染者も減っているだろうと思い、秋に延期を考えていました。しかし、今は子供たちに考えさせて決めさせたことがよかったと思っています。2学期も「考える」ことを大切にして、自分なりの答えを、自分たちで答えを見つけて、よりよい活動を進めていってほしいと思います。



夏休み中の様子

<ラジオ体操の様子>



夏休み中のラジオ体操の様子です。今年度は昨年度よりも回数を多くしたり、取り組んだ地域も多くなったりしました。コロナ禍の中、各地域での判断や取組など、ありがとうございました。

<教職員の研修の様子>



新潟県教育委員会の「スクールロイヤー活用事業」を活用して、「いじめ防止対策推進法の要点」を、スクールロイヤー（弁護士）から講話をしていただきました。子供たちの生命を守るには、いじめの未然防止といじめを見逃さないことが大切です。そのために、教職員の正確ないじめの認知が欠かせません。いじめの定義やいじめを防止するための学校の責務、重大事態（いじめにより生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い）等について、再確認をしました。



麗澤大学の先生を講師として、小学校で行った道徳の授業について、指導してもらったり、小中の先生で道徳の授業について考えたりする研修会を行いました。今年度、須田中学校区は、加茂市教育委員会の指定研究を受け、11月に授業を公開します。小学校は、国語と道徳の授業を公開する予定です。国語で身に付けた「話す・聞く」の力を活用して、子供たちが対話を通して、学習を深めていきます。



加茂警察署の方に学校に来ていただき、不審者への対応について学びました。いざという時、子供たちを避難させるために、先生たちは自分の身を守りながら、警察が到着するまでの時間をかせがなければいけません。そのために、さすまたの使い方や簡単な護身術を学びました。子供たちも先生もどちらの命を守るためにも、避難は素早くを徹底したいと思います。